

# 女子ハンドボール世界トップレベルの速攻の発展傾向に関する研究

関澤 あすか (201211889, ハンドボールコーチング論)

指導教員：山田 永子, 會田 宏, 藤本 元,

キーワード：速攻占有率, 速攻ストップ率, 3次速攻

## 【目的】

本研究では, 世界トップレベルの近年の大会で展開されている速攻を分析し, どのように速攻戦術発展して来たのかを明らかにすること, さらに吉兼(2014)で明らかになった男子の結果と比較をして男子と女子の間に間違いがあるのかどうかを明らかにすることを目的とした。

## 【方法】

世界選手権大会の決勝, 準決勝, 3位決定戦の16試合を対象試合とした。速攻戦術の発展傾向を明らかにするため回帰分析を行った。

分析項目は, (1)攻撃回数(2)速攻回数(3)総得点(4)速攻得点(5)速攻ストップ数(6)速攻ミス数(7)速攻シュート本数(8)速攻占有率(9)速攻試行占有率(10)速攻得点占有率(11)速攻成功率(12)速攻シュート成功率(13)速攻ストップ率(14)速攻ミス率(15)1次速攻(16)2次速攻(17)3次速攻(18)クイックスローオフである。

## 【結果と考察】

### 1. 攻撃回数, 速攻回数および占有率について

速攻試行回数は年々減少していることが分かった。このことから, 試合の展開が落ち着いてきていること, 速攻を仕掛ける回数が減っていることが分かった。これらの原因として, 戻り防御の習熟, 防御専門のプレーヤーが速攻に参加しないことの2つが推察される。男子の結果と比較すると, 攻撃回数に関しては男子に差はみられなかったが, 女子は年々減少している。

### 2. 総得点, 速攻得点および得点占有率について

総得点, 速攻得点および占有率ともに大きな差はみられなかった。男子の結果と比較すると, 全体的に大きな差はみられなかった。

### 3. 速攻に行ける攻撃様相について

速攻ストップ数は年々減少傾向にあるということが分かった。このことから速攻を仕掛けることが効果的な状況かどうかの見極めがよくなってい

ることが推察される。男子の結果と比較すると, 速攻成功率に関しては女子の成功率は50%以下なのに対して男子は50%以上と女子の速攻成功率が低いことが分かった。

### 4. 1次速攻について

4大会いずれにおいても成功率は高い値を示し, ストップ数は低い値を示した。このことから1次速攻は止められることなくシュート達成していることが分かった。男子の結果と比較すると, 1次速攻のミス数に関しては女子のほうが多いことが分かった。

### 5. 2次速攻について

4大会を通して差はみられなかった。成功率, シュート成功率に関しては2013年が最も高い値を示していた。男子の結果と比較すると, シュート成功率のみわずかではあるが女子の方が低い値を示し, その他の項目に関しては女子の方が高い値を示した。

### 6. 3次速攻について

得点, ミス数に関して差はみられなかった。ストップ数に関して年々減少傾向だと分かった。男子の結果と比較すると, ストップ数に関して男子は年々増加傾向だと分かった。このことから女子は3次速攻で攻撃を継続させること, 男子は遅攻に切り変えて攻撃することが多くなっていることが分かった。

### 7. クイックスローオフについて

2011年から2013年で回数, 得点, シュート本数が増加したがミス数は変わらず低い値を示していることが分かった。男子の結果と比較すると, シュート成功率に関しては, 女子の方が男子の値のより低いことが分かった。

## 【結論】

女子の世界トップレベルの4大会では, 速攻試行回数および速攻ストップ数は年々減少している。男子と比較した結果は, 速攻試行回数およびストップ数に関して女子は減少しているのに対し, 男子は増加傾向にある。